

Newsletterは、東京YWCAの事業活動を皆様にお伝えするための広報紙です。毎回特集で取り上げる事業を中心に、東京YWCAの今をお届けします。

特集

新型コロナ  
COVID-19

新型コロナウイルス感染症が世界で拡大し、誰かと会って話したり一緒に食事をしたりという当たり前にできたことのできない日常が、日本でも続いています。そうした社会状況の中で、東京YWCAがどう事業活動を継続していくのか、模索中の現在をお伝えします。

## “コロナの影響下で事業を模索する”

新型コロナウイルス感染症により、世界中で女性や子ども、高齢者や障がいを持つ人の健康や人権に、社会のしわ寄せが来ています。東京YWCAは「すべての人が神の前に等しい価値を持つ」ことを信じるキリスト教を基盤に、女性や子どもにフォーカスして活動しています。コロナ禍は私たちに、今なすべきことは何なのかを突き付けました。

### 集まることができない難しさ 活動するか否かの葛藤も

東京YWCAでは2020年2月下旬から徐々にイベントの延期や中止、3月には全面的に取りやめ、4月7日の緊急事態宣言発出にともない、行政の要請で継続する一部事業を除いて、すべて休業し

ました。宣言解除後の5月26日に事業を再開したときには、新しい生活様式と共に命を守らねばならない世の中になっていました。

YWCAは人と人が出会い、交流することで互いに支え合い成長する場です。会えないことは、様々な活動の上で最大の制約であり困難です。

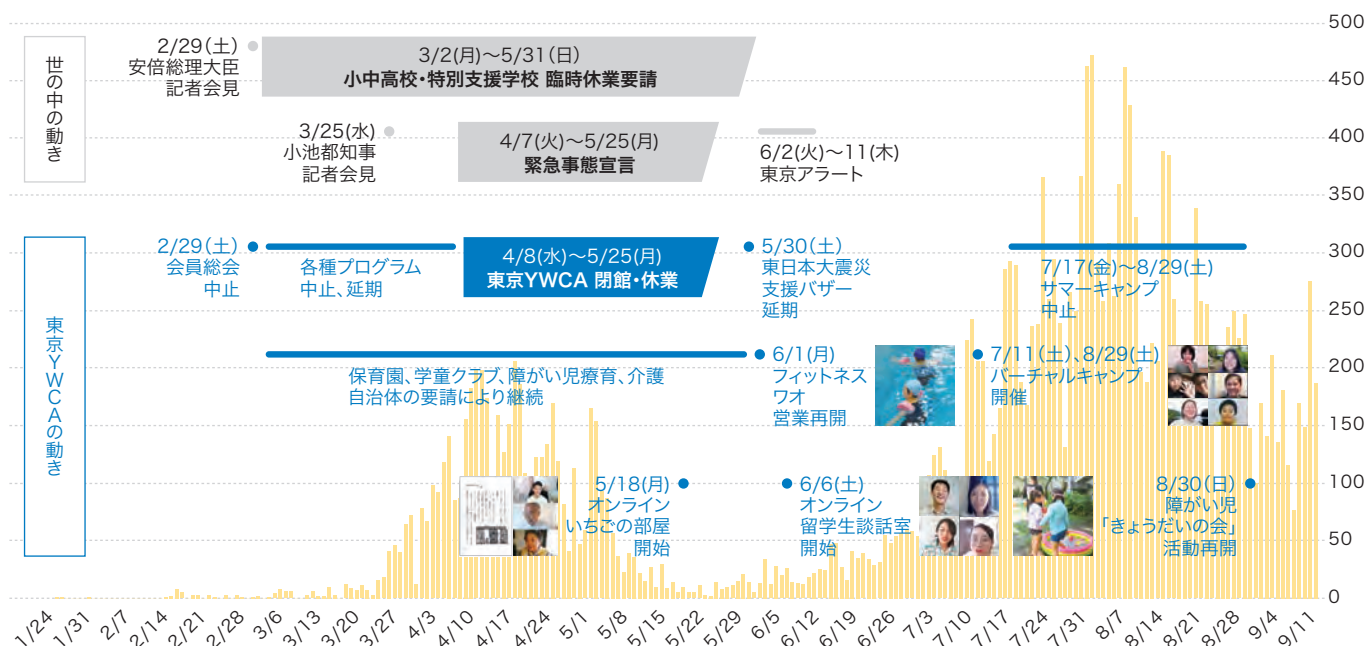
またボランティア団体ならではの葛藤もありました。電話相談「シニアダイヤル」では活動の重要性が増す一方で、ボランティアである相談員の健康と安全も大切です。相談員の中でも休止と継続に意見がわかれる中、感染が拡大する3月下旬に一旦活動を休止しました。6月上旬から相談室の感染予防対策を徹底し、再開しています。

### オンラインは代替になるのか それぞれの事業による違い

高齢者のための介護予防は身近な地域での交流の場で、外に出て人と集うこと抜きには成り立たず、休止したままです。肢体不自由者水泳は、参加者の身体を動かしたいという切実な願いのもと、7月に再開しました。障がい児を兄弟姉妹に持つ子どもたちのプログラムは、家庭以外の場で思いきり遊び自分を解放することが重要でオンラインには適しません。一方、この機会に事業の一部オンライン化に取り組み、将来構想をする事業もあります。

各事業が新しい生活様式の下、模索しながら活動を行う現状をお伝えします。

### 新型コロナ下における東京YWCAの主な動き



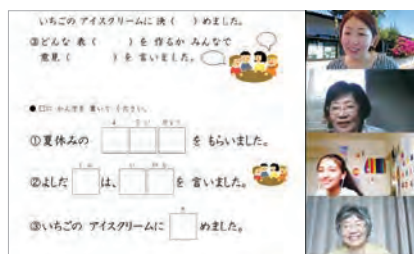
# いちごの部屋オンライン支援に挑戦中！

## 個々に合った支援を模索しながら 1人も取り残されることがないように

「いちごの部屋」では外国ルーツの子どもへの日本語・学習支援を5月18日からオンラインで再開しました。学校休校中は日本語を母語としない保護者は宿題を見てあげられないことや日本語力の低下が懸念され、子どもたちの力になりたいという委員たちの強い思いからの取り組みでした。グループに分かれて画面上で教材を共有しながら個別指導を行います。パソコン操作に長けた学生ボランティアや子どもたちはすぐに慣れ、新しい支援の形をつくることができました。オンライン対応が難しい子どもには、感染予防対策をしながら武蔵野センターで支援しています。支援をお休み中の子どもにも手紙を送る等、つながりを大切にしています。



つながっているね！子どももボランティアもみんな元気で



漢字、国語の音読、算数、歴史、理科…教材は様々

## 子どもたちがコロナ禍で学習機会を失わない為に

前回の特集後、多くの方からご寄付や激励、様々な情報をいただき感謝申し上げます。普段接する機会のない外国ルーツの子どもを取り巻く現状を皆様にもご理解いただき関心を寄せていただいたことも有難く思います。今年度は科学実験や

キャンプは中止の予定ですが、体験プログラムをどのように開催できるか検討していきます。いただいたご寄付は、空調整備、除菌消毒等の衛生製品にも使わせていただいております。支援環境を整える為に今後とも応援をお願いいたします。

## キャンプができない 野尻に行けない夏

### 密集・密接を求めるのがキャンプ

主催キャンプ中止、夏季キャンプ場を開設しないと決定、キャンパーとリーダーは野尻に行けない夏を経験しました。オンラインリーダー会、キャンパーとリーダーが集まるバーチャルキャンプでは、キャンプソングを歌いビンゴをしたり、いつもと同じ事はできなくても顔を見て時間を共有し、少し安心が生まれました。YMCA、ガールスカウト、ボーイスカウト、日本キャンプ協会と共にコロナ禍での体験喪失を危惧し共同声明を発表しました。自然体験は不要不急かもしれませんが、子どもの成長には必要不可欠であり、今後のプログラムの在り方を探っていきます。



子どもたちの声が聞こえない寂しい夏... 棧橋のない水泳場

## コロナでDV増加 相談員育成が急務

### オンラインのトレーニングを開発中

東京YWCAでは、DV被害者の支援に携わる人々が息長くより良い支援を続けることができるようにプログラムを実施しています。新型コロナウイルスの感染拡大により外出自粛が強制/要請される中で世界的にDVは増加しています。日ごろから人材不足が課題である支援現場では、様々な研修が中止され育成もままならない状況です。東京YWCAでも「DVサバイバーと協働するための支援者トレーニング」を中止し、オンライン研修の検討を始めました。支援者トレーニングでは、講義と体験ワークを織り交ぜ、参加者同士の交流を促し、皆が安心できる場づくりを大切にしています。それをどのようにオンラインで実現できるのか、3月開催を目指して試行錯誤中です。ポストコロナでは、オンラインとオフラインのそれぞれの良さを生かし、より多くの支援者に参加してもらえるようにと考えています。



皆でまた集まれることを願って



## 困難時も留学生に寄り添う 「留学生の母親」運動

### オンラインの日本語支援や奨学金で留学生を支援

日本で学ぶ外国人留学生が、学校やアルバイト先以外で日本語を話す留学生談話室は、毎週土曜日開催でしたが2月22日から休室しました。4月にボランティア企業から「オンライン留学生談話室」の提案があり、この企業の協力で運営ボランティアは操作練習を繰り返し、6月のテスト開室を経て、7月の本開室に至りました。休室前と同じく毎週土曜日、少人数の複数グループで会話をを楽しむ場になっ

ています。これまで会場に来られなかった地方在住の留学生が参加したり、若いボランティアが増えたりという良い面もありました。今後も引き続きオンラインで開室していく予定です。外出自粛要請以降、留学生がアルバイトの時間減少や失職で困窮している報告が寄せられています。経済的に困難な状況の留学生支援のため、特別奨学金を実施する予定です。ご寄付にご協力をお願いいたします。



オンライン留学生談話室 笑顔満点！

## 東日本大震災 被災者支援事業

### 春まで終息を待つ子どもたち

今年3月11日に東日本大震災は10年を迎えました。5月30日の第10回支援バザーは、最終回として、福島県の後援、東京都の広報、企業・団体の支援や協力も決まっていますが、三密の極みともいうべきイベントで万全の感染症対策が難しかったため3月23日に1年延期を決めました。福島の子どものためのキャンプも今夏は中止し、春に野尻キャンプ場で雪遊びができることを願っています。



昨年の夏は楽しかった…

## 仲間とつながろう！ 孤独から連帯へ

### 平和を作り出す者は、歩みを止めない

平和、非暴力、非核、非戦の大切さを共に考える「憲法カフェ」は、三密を避けての開催の目途が立たず、2月15日に実施した第36回を最後に休止しています。それでも、あらゆる世代で人権が守られ、誰もが差別されず、自分らしく生きられる平和な社会を作り出すアクションとして、ユースを中心にした「Rise UP! プロジェクト」が、安心して語り合える「オンラインセーフスペース」を企画しています。コロナ禍で心理的にも、経済的にも不安を抱えながら過ごしている若い女性が対象です。参加者同士、自分の思いを伝え合い、つながりを持つことでエンパワーされる機会になることを願って今秋実施を目指しています。

## 保育園 学童クラブ 療育 介護

### 行政からの要請で4事業は途切れることなく継続

緊急事態宣言下でも休めない保護者への支援として事業を継続し、特に感染が命の危機に直結する高齢者・障がい児者への支援は、利用者はもとより家族を支

えることも重要となりました。先が見通せない中で変わらぬ対応が求められ、600人近い利用者と、職員150余名の健康と安全を守るための日々が続いています。



ちょうどいい距離！学童で水鉄砲大会

### お問い合わせ先・最新情報

東京YWCA  
財団管理部企画課

☎ 03-3293-5436 ✉ [kaiin@tokyo.ywca.or.jp](mailto:kaiin@tokyo.ywca.or.jp)  
🏠 <https://www.tokyo.ywca.or.jp/news/>

